

【2021年上半期の火災統計（速報値）について】

2021年上半期の火災統計（速報値）を取りまとめましたので公表します。

※ 速報値としての公表であり、精査の結果、数値を修正する場合があります。

※ 小数点を含む数値は、小数第二位を四捨五入して表記しています。

※ 平均値は、2018年から2020年までの3年間の数値です。

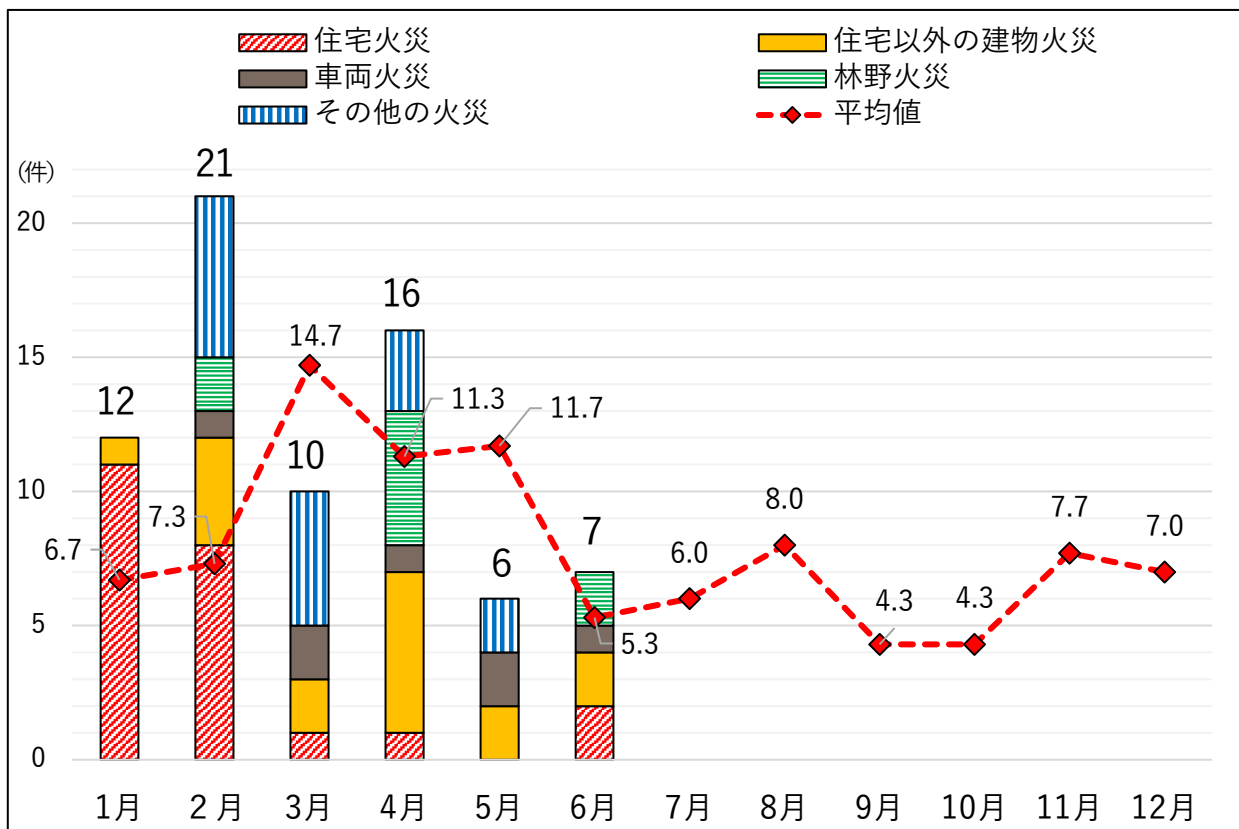
1 月別火災件数の推移

2021年上半期の火災件数は72件で、2020年同期間の46件と比較して26件（56.5%）増加しました。

月別の推移をみると、2月が最も多く21件、次いで4月が16件、1月が12件と続きます。

これらの月（1月、2月、4月）はいずれも平均値を大きく上回っており、特徴として1月はすべて建物火災、2月は半数以上が建物火災、4月はその他の火災と林野火災で半数を占める結果となりました。

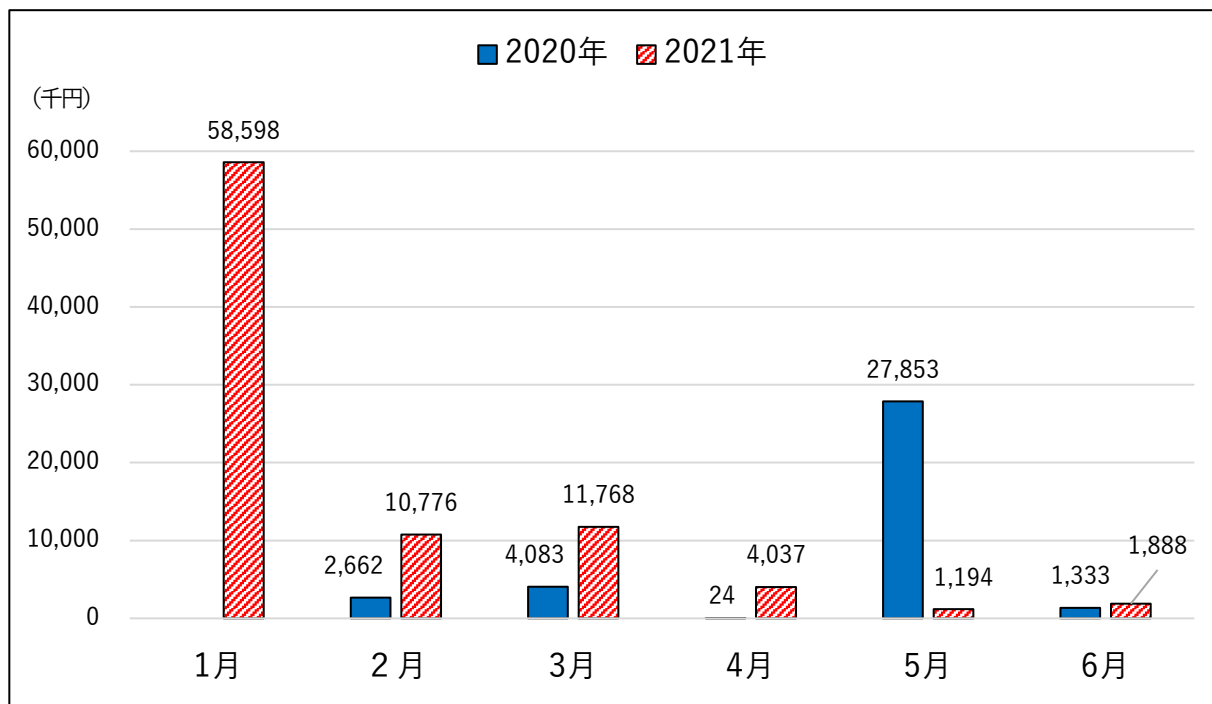
住宅火災に着目すると、1月が11件、2月が8件と多く、3月以降は0件から2件で推移しました。



2 月別損害額の推移

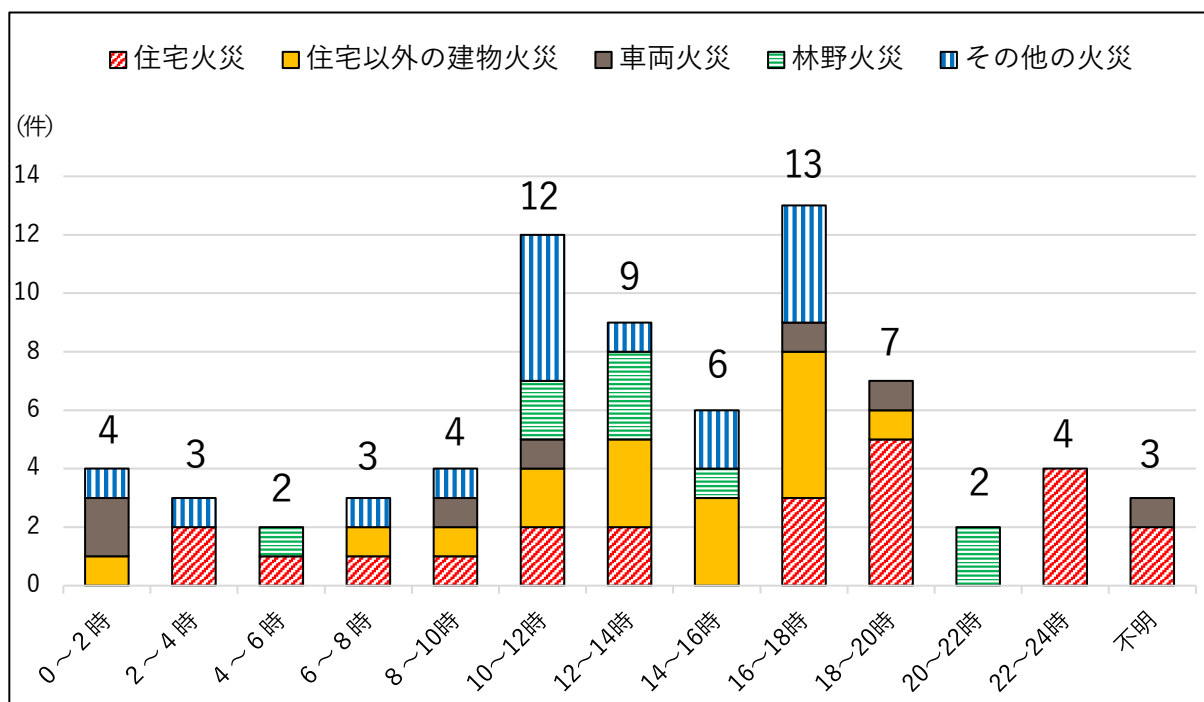
2021年上半期の火災による損害額は合計88,261千円で、2020年同期間の35,955千円と比較して52,306千円（145.5%）増加しました。

月別にみると、5月以外はいずれも2020年を上回る損害額となりました。



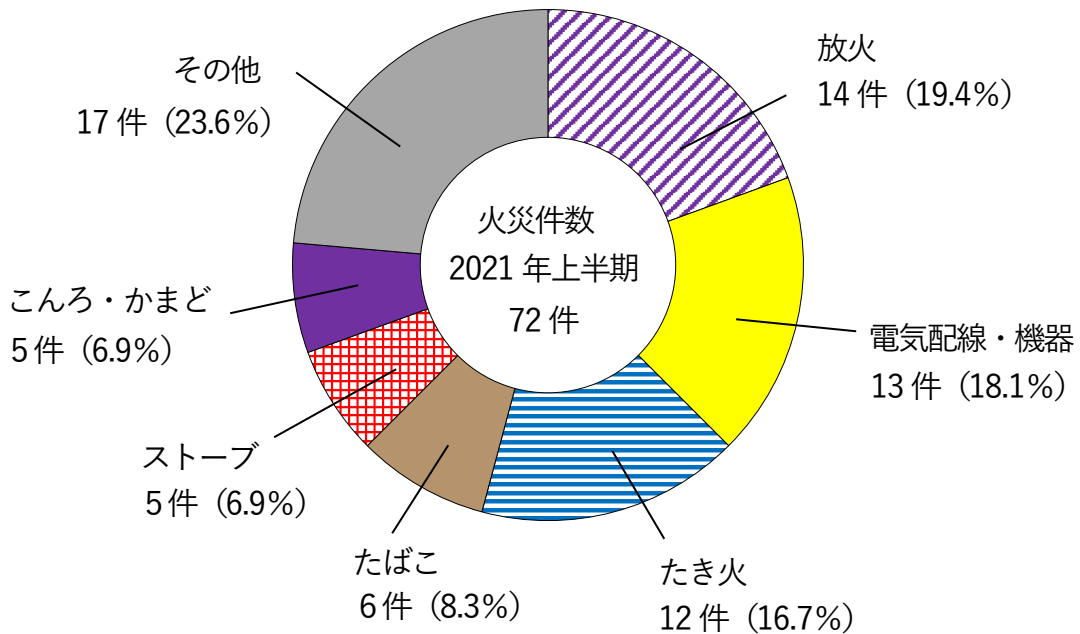
3 発生時間帯別の火災件数

発生時間帯別の火災件数をみると、「16時から18時」が13件で最も多く、次いで「10時から12時」が12件、「12時から14時」が9件、「18時から20時」が7件と続きます。昼前後と夕方の時間帯に特に多く火災が発生したことが分かります。



4 出火原因

出火原因で最も多いのは「放火」（疑いを含む）の14件（19.4%）、次いで「電気配線・機器」の13件（18.1%）、「たき火」の12件（16.7%）と続きます。



5 火災に至る行動等の分析

火災に至る行動等で最も多いのが「火源・熱源の放置」と「施工・点検・整備不良」の19件（26.4%）、次いで「犯罪」と「不適切な取扱い」の13件（18.1%）と続きます。

